

週刊

KODOMO 新聞

掲げて選挙で率や不人気が中間選で過半

「幸せカルタ」の札を読む前野隆司さん。「カルタの言葉から連想をして、アイデアを出す」とにも使えます。(横浜市の慶応義塾大学大学院で)

幸福の研究は2000年代から盛んになりました。先生の研究について



先生のお話を聞いていて私も楽しくなり、幸福が伝染してくるのを感じました。みんなが家族や友人、遠い世界の人々とも幸福を与え合うような世の中になるといいなと思います。

(R)

中学校でそのポラスにうたを歌って練習した。その予作の練習も

ライブ開催 利益を寄付

高校生、大学生がチームを組んで、音楽イベントを開く活動「ブラストビート」が、若い世代のチャレンジ精神を育て、社会とのつながりを築く取り組みとして注目されています。NPO

法人ブラストビート代表理事の松浦貴昌さん(36)に、小さな社会貢献、ビジネス体験について聞きました。東日本大震災から半年後の2011年9月、東京・渋谷のライブハウスで、女

子高生6人がコンサートを開催しました。その3か月前、チームを作った「ジエットコースター」という名前の模擬音楽会社を設立。「遊園地のようなライブを開こう」と、アーティストへの出演依頼やチケット販売、会場の飾り付けなどを手がけます。本番は100人以上が集まり、成功を収めました。

このチームは、被災した宮城県石巻市で中高生の居場所作りをしている団体に約7万円を届けました。各チームは利益の25%以上を寄付することが活動のルールになっています。

ブラストビートは2003年、アイルランドで始まった教育プログラム。英国や米国などに広がり、日本では09年、マーケティング会社社長の松浦さんが団体を作りました。年2回、参加者を募集し、国内では30以上の高校、70を超える大学から計約400人が参加。首都圏を中心に40回以上のライブを行い、プラネタリウムやお寺の本堂も会場になりました。



高校生、大学生がライブを企画、運営する「NPO法人ブラストビート」代表理事の松浦貴昌さん

ライブ後、記念撮影に納まる「ジエットコースター」の高校生と出演者たち。遊園地をイメージしたライブ会場を風船で飾った(NPO法人ブラストビート提供)

5周年の節目に、かつての参加者から「うれしかったのは、出合いに恵まれたこと。つらかったのは、様々な価値観の人がいる中で、しっかりと主張しないと伝わらないことでした」などの声が寄せられました。音楽を通して社会に貢献する活動はすばらしく、私たちがもたくさんの出会いから学びたいと思いました。(小6・尾崎駿太郎、中2・依田佳穂里、高3・七五三木直子記者)

ジュニアプレス

JUNIOR PRESS